

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	サンキウエルビー株式会社	代表者	並木 寛	法人・事業所の特徴	「福祉事業を通じて地域社会に貢献する」という企業理念のもと、地域包括ケアの中のセーフティネットを目指し、泊り・通い・訪問のサービスを十二分に活かし柔軟な対応で工夫しながらその人らしい生活の維持ができるよう努力している。毎月の研修や意見交換を行いサービスや質の向上を目指している。
事業所名	小規模多機能センター大崎	管理者	瀬島 由美子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	1人	人	2人	人	8人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	現状の課題を事業所全体で話し合いそれぞれの考えや実践、すり合わせが出来るように進めていく。	スタッフ全員での評価はできたが個々の考え方の差が出てしまった。	目標を絞っていくことで1つ良くなれば連動して良くなっている。具体的な目標にしてみてもいい。	職員の考え方や実践について、話し合いの時間を持ち共有する。 (月1回の拠点会議)
B. 事業所のしつらえ・環境	ご利用者様とスタッフと一緒に四季折々の行事を開催し楽しい時間を過ごす。	事業所内ではあったが夏祭り・敬老会・クリスマス会など四季折々のイベントが開催できた。四季を感じられるようなレクリエーションができた。	コロナ禍のなか施設を訪れることはできなかったが大崎だよりを見たり状況説明を聞いて利用者が楽しく過ごされているのが良くわかった。	ご利用者様とスタッフで考えた行事を月1回開催していく。
C. 事業所と地域のかかわり	公民館との連携を行い協働の行事などを実施していく。	地域文化祭に参加することができた。	地域行事には参加ができています。回数が少ないのはやむを得ないでしょう。	公民館と協力し行事を開催する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の社会資源を知り、活用できるように努める。	地域資源が理解できていない。	このような機会に学びを深めてほしい。	ご利用者それぞれの環境を日常のかかわりの中から引き出し、スタッフで共有する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の方や行政の方から意見を頂く機会をできるだけ持ち情報共有していく。	9月開催より大崎公民館をお借りして2年ぶりの対面での開催ができた。センター運営に大変励みとなった。	活発な意見が出て良い会議となっている。困難事例などこの会で相談していき解決策を模索してはどうでしょう。	2か月に1度の開催を継続し、地域の方にセンターでの活動を知っていただく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加する。事業所の防災訓練を案内し地域やご家族に参加を促す。	コロナ禍の中防災訓練に参加することができなかった。非常災害時についての対策が進められている。	時節柄地域の防災行事不参加は仕方がない。災害直後の3日間は地域、隣近所の助け合いが重要です。今後も連携していきましょう	非常災害時の対応についての理解を深める。